

HERBERT JHRERING

1954年の新作というと？

MARCEL MARCEAU

あなたには正直に話しましょう、1954年は回顧の年だったのです。

HERBERT JHRERING

そんなに早く？もう歴史を考えてるんですか？

MARCEL MARCEAU

とんでもない。そういう衝動にかられていたということです。なにしろ秀作とビップを持ってスカンジナビアを一ヶ月あるき、スイスに一ヶ月いて、そのあとまたドイツを一ヶ月巡業したのですからね。「また」といいましたが、これがじつは五度目の大巡業だったのです。パリへ帰るとすぐアンサンブルでロンドンへ行くことになっていました。それが期限切れで失敗。そこで私たちは腹をきめて、パリのルネッサンス座で、ここ二年間にだした作品のなかのいいものを選んで回顧上演することにしたのです。この公演は三ヶ月満員つづきでした。大衆は温かく見てくれました。そのときわかりました、ひとりの芸術家が温かい観客をつくるまでには最低五年はかかるということが。ですから、そういう大衆が新作にたいして普通以上の欲求と緊張をもっているというのは、望ましく、うれしいことです。でもそこに危険もあります。大衆は、俳優にたいして、じぶんがはじめて見て好きになったときのままでいてほしいという気持ちを持つからです。芸術家がじぶんのフォルムを変えようとするのには、この愛情は困りものです。私が新しいプログラムをつくって、ビップをそのなかへ入れなかったら、私の観客たちはだまされたような気持ちになるんですよ。

P.90-91 「パントマイム芸術」 1971年第1刷発行 てすびす双書63 未来社

(原書1956年 Herbert Jhering・Marcel Marceau "Die Weltkunst der Pantomime" Aufbau-Verlag Berlin)

